

社会福祉学会 News letter

第20号 2019年3月25日発行 長崎国際大学社会福祉学会（代表・中村 龍文）

長崎県佐世保市ハウステンボス町 2825-7 長崎国際大学 中村 龍文 研究室 204 Tel0956-20-5508



社会福祉学科からの今年度の便りです

学科長 中村 龍文



春の訪れを五感で受けとめる季節になってきました。皆様いかがお過ごしでしょうか。社会福祉学科からの平成最後の便りです。今年度1年間の出来事について思いつくままに、私の所感も含めてご報告したいと思います。今年度より、我が学科にはお二人の新しい仲間が加わりましたことをまずは報告致します。種橋征子講師と中村美穂講師です。お二人にはこれからのお活躍を期待しています。

今年度も学科員すべての人達は、本学科の3大ポリシーの下、教育・研究・地域貢献にとそれぞれに「粉骨碎身」して打ち込んでいました。この3つのすべての分野のみならず、事務的な作業も含めて年々仕事量が増えている感じです。余裕のない所からは何も生まれないという観点に立てば、今後は「働き方改革」によって、少しでも環境なりとも改善されることを望む次第です。

今年度の研究分野においての活動では、競争的外部資金を5名の教員が獲得して、それぞれの分野で研究を着実に遂行しています。今後は、国内外の権威ある雑誌への積極的な投稿を目指して、成果をあげていって欲しいと心から願っています。そして、その成果を武器として国内外の研究者と堂々と議論していくって欲しいと思います。研究と関連して、新任の種橋征子講師が日本ソーシャルワーク学会の学術奨励賞を受賞されました。受賞といえば、柳智盛講師、安藤佳珠子講師、細野広美助教の3名が本学内のベストティーチャー賞を受賞されています。大変おめでとうございます。

最近は地方の大学には地域貢献という職務がとても大事な位置付けを持ってきているように思います。地域貢献といえば、勿論他の分野の学部・学科と比べて我が学科はより活動していると思いますが、そのプロトタイプはボランティア活動にあるかと思います。この点においては、我が学科では柳詰慎一講師が、休日がないくらいこれまでに精力的に活動してきました。その彼が今年度一杯で、我々の所を去られるということは甚だ寂しいものを感じます。勿論、ボランティア活動以外にもQSP事業の一環としての多職種協働研修会や子ども食堂開催などの地域連携事業、更には今年度より導入された介護福祉士の育成のための長崎県介護福祉育成施設入学者確保支援事業、また平戸市社会福祉協議会との連携協定等々、我が学科は社会連携・産学官連携等を積極的に推進し、地域に密着した事業を展開しています。

以上、今年度1年間の我が学科について大まかなご報告をさせて頂きました。まだまだ、ご報告しなければならないことが、多々あるかと思いますが、紙面の都合上お許しください。

皆さん、我が学科は質の高い福祉職のプロの卵を社会に送り出していくます。その後は彼らをどんどん磨いていくつ頃ければ有難いです。多くの職種にAI（人工知能）がどんどん入り込んでくる時代と言われている中、福祉の分野は決してAIには変えられない職種です。それだからこそ、どうぞ皆様、我々の手で最高の福祉を実現させていくために力を合わせていきましょう。今後とも何卒よろしくお願ひ致します。



研究室レポート：種橋研究室 便り

今迄の経験を生かして、教育と研究に取り組む

平成30年4月から社会福祉学科に着任いたしました種橋征子と申します。

私は愛知県の大学で社会福祉を学んだあと、大阪にある創業110年を超える老舗の高齢者総合福祉施設に介護職員として入職し、その後、途中大学院進学のために京都に移り、5年ほど法人を離れましたが、訪問介護員、特養の生活相談員、介護支援専門員、複数の居宅介護サービス事業所の統括として同法人で15年半、業務を行ってきました。大学の専任教員になったのは、平成15年4月からで、大学教員としての経験はこの3月末で丸4年になり、教員としてはまだまだ未熟者です。

また、研究の方は、介護現場における介護職員の働きやすさや援助の質の向上に寄与できればと考えており、今は、介護職員の離職を防ぐための介護福祉施設の理念浸透に関する研究を行っています。

着任からこの1年を振り返ってみると、本当にあつという間に1年が経ってしまったという印象があります。



前期は、実習に関する科目やゼミ以外に4年生配当科目の「福祉経営論」「福祉行財政と福祉計画論」の講義を担当しましたが、国家試験科目の中でも苦手科目の上位に挙がるこれらの科目をどうわかりやすく伝えるか、レジュメを作成するかで毎日頭がいっぱいでした。夏休み期間中は、地域にも車の運転にも不慣れな中での実習巡回に緊張し、後期に入ってからは、社会福祉士国家試験対策に追われ、息をつく間もない毎日でした。

それでも、元気で明るい学生さんや、親切で温かい教職員の方々のおかげで1年間、無事に過ごすことができました。来年度は、本年度の経験を活かして、教育に、研究にしっかり取り組んでいきたいと思います。そして、気持ちや時間に余裕ができれば長崎県内の観光もできればと考えております。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

(種橋征子)

研究室レポート：中村研究室 便り

学生相談に関する研究活動を真剣に取り組みたい



はじめまして。平成30年度より社会福祉学科に着任いたしました、中村美穂と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

私の専門は「臨床心理学」という分野です。臨床心理学とは、人の心の働きや仕組みなどについての知識と技法を活用し、人が生活していく上で必要なこころの健康の予防や支援、治療などを心理面かつ発達面から検討し実践していく専門分野です。

私は、特に、学校という場における子や親、教師への心理臨床的なアプローチに興味関心を持ち、学校臨床心理士として活動してきました。小学校や中学校、高等学校、大学、専門学校などのさまざまな教育現場で、多くの子や親、教師と出会い、こころの声を聴かせていただきました。私は、そのような生身の人間の内的なこころの世界に寄り添うことを通して、子や親、教師がどのような心理支援を求めているのかを考えるようになります。

た。

本学においては、「心理学」を担当する教員であると同時に、学生相談室の専任カウンセラーをも兼務し、多くの学生との出会いをいただきたいと考えています。そのため、今現在、相談室内での「カウンセリング」のみではなく、相談室外での「ランチアワー」などにも積極的に取り組んでいるところです。さらに、このような実践を活かして、学生や保護者、教職員のニーズを汲み取りながら、学生相談に関する研究活動にも真剣に取り組んでいきたいと思います。

私が担当している学生相談日は、火曜日および木曜日です。気軽にご利用いただけると幸甚です。学生の皆さんとお会いできることを心よりお待ちしております。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

(学生相談室：中村美穂)

卒業生の今

「楽しみながら」

14期生 野林 加奈



皆さんこんにちは。卒業生の野林加奈です。

昨年卒業し、4月から社会福祉法人南高愛隣会に入職しました。主に知的障がいをもつ方の支援を行っており、私はグループホームの生活支援員として勤務しています。

社会人1年目、初めて社会に出ることや社会人としてのマナーなど不安なこともありましたが、良い職場環境のもと、やりがいを感じながら現在働くことが出来ています。

グループホームの支援は、利用者さんの生活の基盤となるものだと感じます。食事や入浴支援などの直接支援だけでなく、利用者さんからの相談を受けたり、病院受診や服薬などの医療的な支援。また、サービス申請の手続き代行など利用者が福祉サービスを受けるための間接的な支援も多く、幅広い業務内容です。入職するまでの「グループホームの支援」のイメージとは違っています。

たが、それがやりがいにつながっています。

利用者さんとの関わりの中では、なかなか思いが伝わらないもどかしさなどもありますが、楽しさの方が大きいです。特に、笑顔で過ごされている時は嬉しいですし、こちらも笑顔になります。どんな仕事内容であっても、楽しむ気持ちをもつことは大切だと感じます。色々と工夫をしながらの関わりですが、日々の変化を感じる仕事です。また、当法人は様々な事業を行っています。ジョブローテーションを通して、様々な事業所で働き、経験を積むことができます。その中で2年目は、就労支援と生活介護で、利用者さんの日中活動の支援に携わらせていただきます。1年目とはまた違った視点で利用者さんを見ていきたいと思います。これからも学ぶ姿勢を常に持ちながら、自分の興味ある分野を探していきたいと思います。



「思い切って自分の好きな道に進む」

14期生 東 慎幸

こんにちは。昨年、社会福祉学科を卒業した東慎幸と申します。昨年の四月一日から自動車会社の(株)スズキ自販長崎に就職いたしました。

主な仕事の内容としては自動車の販売を通して、お客様によりよいカーライフを送っていただけるようサポートをさせていただくことです。あと、1年目は新入社員キャンペーンというものがあり始めて順位がつくイベントもあります。運良くも私は上司や先輩社員の方々、大学の先生方や友達にと、たくさんの応援もあり、賞状を頂くことが出来ました！

自動車会社と福祉は関係ないのでは？と思いつの方もいらっしゃるかもしれません、お客様(利用

者)に笑顔になっていただくという点では共通しているのかなと感じています。お客様からの「ありがとうございます」が一番の報酬であり、やりがいです！

また、私は中古車を主に取り扱わせていただいているが、福祉車両も対象なので大学で学んだ知識はもちろん、お客様との話題作りにも役立っています。

もし、就職で迷っているなら、思い切って自分の好きな道に進んでみてください。無駄なことなんて一つもない、すべてがどこかで繋がると思います。

これから良きカーライフアドバイザーになれるように私も日々精進していきます！

国家試験合格支援の現場から

社会福祉学科国家試験合格支援委員会

国家試験合格支援委員会 脇野 幸太郎

今年度も1月27日に介護福祉士、2月2日に精神保健福祉士、3日に社会福祉士の国家試験が実施され、本学からは介護福祉士3名（うち社会福祉士とのダブル受験者2名）、精神保健福祉士6名（全員社会福祉士とのダブル受験者）、社会福祉士35名が受験しました。

前回（2018年2月）の国家試験では、介護福祉士は受験者7名全員合格（！）、精神保健福祉士も受験者5名全員合格（！）、社会福祉士は44名中13名合格（合格率29.5%）という結果でした。特に昨年度の社会福祉士国試では、99点という前代未聞の合格基準が設定され、合格確実と思われていた学生が涙を飲むといった光景もみられました。

今年度は、昨年度までの脇野に代わり、野田先生

が国家試験合格支援委員長に就任され、新たな体制のもとで合格支援の新機軸が次々と打ち出されました。その結果、後期も中盤以降には、模擬試験の平均点が大幅に上昇するなど成果が目に見えて表れるようになりました。このようにして力をつけた学生たちは、本番の国試でも全力で頑張ってきてくれたことと思います。

現在は自己採点も終わり、あとは発表を待つばかりという、最も落ち着かない期間ではありますが、4年生たちには、これまで本学科で学んできたことを糧に、自信をもって社会人としての一歩を踏み出してほしいと思っています。社会人の先輩である卒業生のみなさま、後輩たちと社会福祉学科を、これからもどうぞよろしくお願いします！

福祉作文コンクールを開催しました

社会福祉学科では、今年度「第5回福祉作文コンクール」を開催しました。

このコンクールは、福祉教育を推進することを目的として、長崎県内をはじめとする全国の小学生、中学生、高校生を対象に2年に1度開催しているものです。

第5回となる今回は、小中学校から92編、高校から142編、合計234編の応募をいただきました。応募作品は、どれもみずみずしい感性にあふれた秀作ばかりで、審査は非常に難航しましたが、そのなかでも特に光る作品を選考し、合計24編の入賞作品を決定しました。

昨年11月3日（土）には、入賞された生徒さんを本学にお招きして、表彰式と朗読会を開催しました。表彰されたみなさんは、やや緊張した面持ちながら、ご自分の作品を大きな声で元気よく読み上げてくれました。福祉作文コンクールの次回開催は2020年度の予定です。



2018年度 NIU 海外ソーシャルワーク研修(中国)

ヴィラーグ ヴィクトル
(Virág Viktor)



本年度の NIU 海外ソーシャルワーク研修の目的地は中国で、9月10日（月）と14日（金）の間に上海市及びその周辺を訪ねた。訪問団は15人の学生と7人の教員からなり、団長は韓准教授が務めた。

本研修は国際コミュニティ・ケア論という科目の一環でもあり、履修生との準備は4月から始まった。顔合わせを経て、英語の授業による世界の社会福祉（国際的なソーシャルワーク業界の紹介と日中の基礎的なマクロ比較）、課外授業による日本の社会福祉（国内の福祉施設、機関への施設研修）、また中国の社会福祉（中国社会及び文化と上海の紹介と社会福祉制度の基礎知識）を含む予備学習を行った。同じく、前期中に「ふくし作品コンテスト」を開催し、応募者が研修参加の割引券を争った。

研修メンバーが確定してから、事前ミーティングを複数回開き、旅行業者や健康・衛生管理などのオリエンテーションに加え、現地の主要な受け入れ先である上海大学の社会福祉学科及び研究科との交流プログラムの準備を担当チームに分かれて進めた。

現地では、「社会福祉を学ぶ」、「上海大学と交流する」、「中国の街を体験する」という3つのミッションに沿って研修に取り組んだ。

最初のミッションである「社会福祉を学ぶ」ために、主に現場訪問を行った。具体的に、太倉社区（コミュニティセンター）、中荷社会組織サービスセンター、嘉定区障がい者総合活動センター、張江障がい者総合サービスセンターを見学し、職員と利用者と交流を重ねた。本学の学生は時間と機会が与えられた際に、どこでも熱心に質問し、中国の社会福祉施設・機関について、規模が大きい、資源が豊富、地域に親しみやすい、明るく清潔で、開放的、利用者

が少ない、広報と現実に差があるかもしれないなどの印象をもった。

第二の「上海大学と交流する」ミッションを達成するため、研修3日目を上海大学の社会福祉系の教員と学生と社会学院で過ごし、学術講演会、茶道体験、懇親会を実施した。学術講演会では、上海大学の教員は中国、とりわけ上海の高齢者福祉と児童福祉に関するテーマについて、本学の教員は日本の地域福祉と老年看護について発表した。続いて、上海大学と本学の学生は実習、アルバイト、ボランティアなどの現場活動を中心に報告を行った。専門的な交流を得て、茶道体験と歌や演奏の文化交流を含む自由な懇親会が続いた。

第三のミッションに当たる「中国の街を体験する」ために、プログラムの空き時間を使って、五感を活用した異文化間学習を進めた。632mの上海タワーを含む超高層ビル街と上海の中華風（豫園商城）と洋風（外灘）の旧市街の他に、蘇州にも出かけ、世界遺産の中国庭園（耦園）と古い下町（山塘街）を見学した。また、上海大学のキャンパス周辺の学生街でも中国文化を浴びるようにした。

帰国後、3つのミッションに沿って担当チームに分かれ、振り返りをしながら、報告準備に取り組み、学園祭で研修報告を行った。

最後に、この研修は本学学長裁量経費事業と本学科共同研究の一部であり、同じく助成元であった長崎県空港活性化推進協議会とともに、受け入れて下さった上海大学の教員と学生、また訪問した施設及び機関の職員と利用者、研修を支えて下さった本学の教員と学生、その他、本研修に協力して下さった全ての方々に深く感謝の意を表する。



上海大学社会学院の前で



茶道体験の担い手

第17回 長崎国際大学社会福祉学会総会 及び第18回研究発表会

◎日時: 2019年8月9日(金)13時~17時

◎会場: 1101教室

◎内容:

- ① 第18回 研究発表(シンポジウム)
- ② 講演テーマ

「スクール(学校)ソーシャルワーカーはどんな仕事?」

講師: 吉弘 淳一氏

(福井県立大学 看護福祉学部 准教授)

- ③ 学内学会定例総会

お
知
ら
せ

社会福祉学科からのお願い

社会福祉学科を卒業したみなさまや社会福祉学科と縁のある方々に対し、情報を発信していくべく、facebookを立ち上げてから既に5年以上経ちました。皆様が在籍していた頃と変わったこと、変わっていないこと。facebookにてご確認ください。そして、是非コメントもお寄せください。もちろん、在学生の皆さんもチェックしてみてくださいね。検索は「長崎国際大学社会福祉学科」でお願いします。